
rain blue-雨の日-

明智つばめ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

rain blue - 雨の日 -

【ノート】

N8088R

【作者名】

明智つばめ

【あらすじ】

雨の日に青子が傘を忘れてしまっお話です。

ちよっとほのほのお話かなと思いますのでぜひ読んでみてくださいー！

こちらは快青になっております！！

いきなりの雨に途方に暮れていた

青子は日直の仕事をしていたため、帰るのが一番最後だったのだ

「どっしょっしょっしょ…」

傘持っていないし、お父さん仕事だからきつと来ないし…

止むまで待つしかないかな…」

空を見上げたが当分やみそうもない

「やっぱり濡れてもいいから帰ろうかな…」

青子は学校の玄関をうろろろしていた

すると…

誰かがこちらに歩いて来るのを見つけた

傘を深くさしているので顔は見えなかったが近づいて来るうちに誰だかはつきりと気がついた

「快斗!」

青子が叫ぶと快斗は玄関で丁寧に傘の水をきりながら言った

「よお!青子!」

俺…ちょっと忘れ物があったよ…」

「そっかあ！

じゃあ青子待ってるね」

「何でだよ！」

「だって傘忘れちゃって…」

「しょうがね〜な〜！

これ貸してやるから！」

快斗はたった今さしてきた傘を差し出した

「これ…

快斗はどうするの？」

「俺はもう一本あるからよ！」

「うん…

やっぱり待ってる」

青子が傘を受け取りながら言つと快斗は呆れながらも言った

「しょうがねえなあ

すぐ戻ってくるから待ってるよ！」

そう言ってから数分後に快斗は戻ってきた

「早かったねえ」

青子が感心していると快斗は鞆からもう一つ傘を出した

「本当に二本持ってたんだあ！

でもなんで…？」

青子は首を傾げている

(言えるわけねーだろ？)

家に着いたらちょうど雨が降ってきて、青子が朝に傘を持ってなかったから心配して来てやったなんて…)

4

「あゝ！本当は迎えに来てくれたんだあ！」

青子はやっと気付いたらしい…

「うつせ〜な〜！」

あんなに新しい傘を自慢されたら持ってないってすぐわかんたる！」
快斗がそっぽを向くと青子は素直に言った

「自慢なんかしてないわよ〜！」

「してただる？」

雨も降ってね〜のに、

これおニユ一の傘なの〜って振り回してたじゃね〜か!」

「違うもん！」

あの日帰りに雨降ったじゃない!」

「そうだったっけ？」

「うん」

そんなことを言いながら二人は傘を並べながら歩く

「その傘、ちゃんと返せよ!」

「うん!

ありがとう!」

青子はにっこり微笑んだ

それを見て快斗は咳いた

(よかったな…)

それは…

キミが一人にならなくてよかった

泣いてなくてよかった

一緒にいられてよかった

やみそうもない雨にそんな想いをこめて言ったのかもしれない…

(後書き)

雨の日のお話は今後も色々なパターンで書きたいですね！
ちなみに今回のお話で快斗は忘れ物なんてしてませんよ。

青子ちゃんのお迎えがメインなのです！！

さて、今回の話の青子ちゃんが傘を振り回してたって快斗が言うのが個人的には気に入っています。想像するとすごくかわいいと思いませんか???

それでは、

ご感想・ご意見・評価お待ちしております！

明智つばめ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8088r/>

rain blue-雨の日-

2011年10月8日21時00分発行